

総合生活学科カリキュラムマップ

カリキュラムポリシー
(教育課程の編成・実施方針)

ディプロマポリシー
(学位授与方針)

区分	学びの内容		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
	枠組み	内容						
教養科目	教養科目		ベーシック・イングリッシュ	イングリッシュ・スピーキング	トータルビューティー論 地域住居論 くらしと人権	くらしと憲法 心理学		
			イングリッシュ・スピーキング	ベーシック・イングリッシュ				
			カラーコーディネート論	実用観光韓国語				
			熊本学	健康スポーツ				
			日本伝統文化入門	日本語表現				
専門科目	キャリア		女性と社会	キャリアサポート	キャリアサポート応用			
			インターンシップ	社会保障論				
	基礎			基礎セミナー		生活経営論	卒業演習	
				情報リテラシー入門Ⅰ		食生活学		
				情報リテラシー入門Ⅱ				
				社会福祉				
				住生活学				
	医療事務・情報ビジネス			ビジネスマナー	オフィススタディ(秘書概論)		秘書実務	
				職業基礎A 社会人必修ビジネス基礎	簿記会計		文書処理応用	表計算応用
				職業基礎B 資格直結のPC実践技能	情報リテラシー応用Ⅰ		情報科学	情報社会論
情報応用 文書作成・表計算の技能				情報リテラシー応用Ⅱ				
情報理論 情報技術についての知識				医療事務総論	医療秘書実務		生理学	医療文書管理
医療事務 病院・医療事務基礎			ドクターズオフィスワークアシスト					
福祉ウェルネス				保育学	福祉援助論	介護技術 生活支援論 福祉専門職演習 健康科学		
				くらしと福祉 福祉の基礎	介護概論		生活福祉論	
				実践福祉 福祉の実践的知識・技術				
				健康生活 地域活動での他者理解	フィットネスダンス			
				レクリエーション技法 レクリエーションによる地域交流	レクリエーション概論		レクリエーション技法	生涯スポーツ論
生活デザイン				対人コミュニケーション	メンタルヘルス	死生学		
				くらしと心理 より良い生活のための心理的知識				
				インテリア 「もの」の素材やデザインとそれらのコーディネート	インテリアコーディネート論		インテリア演習	
				くらしと住居 住まいに関する知識や住宅設計製図の基礎			福祉住環境論 空間表現演習Ⅰ 空間表現演習Ⅱ アパレルメーキング実習Ⅱ	
				アパレル基礎 基本的な縫製技術	アパレルメーキング実習Ⅰ	アパレル材料学		
ファッションビジネス ファッション業界の基礎知識	アパレルデザイン論		ファッション販売論					
ブライダル ブライダル業界の基礎知識		ブライダル入門	ブライダル実習					
フード 生活に必要な食知識・技術		フードプランニング実習	フードコーディネート実習	食育とおやつ				

CP1
基礎的能力及び幅広く深い教養を身に付ける教養科目と、専門の学芸を身に付ける専門教育科目によりカリキュラムを編成します。

CP2
教養科目は、大学教育を受けるために必要な学力と社会人として求められる汎用的能力を養うために、「教養基礎」「外国語」「人間と社会」「自然と生命」の4領域により編成します。

CP3
初年次に基礎的素養を身に付けるための授業科目を置き、その上に専門的知識と技能を積み上げられるよう授業科目を系統的に配置します。

CP4
専門教育科目は、キャリア教育を含め、ビジネス社会に必要な知識・技術を身に付ける「医療事務・情報ビジネス」、福祉現場等で必要な知識・技術を身に付ける「福祉ウェルネス」、ファッション・インテリア業界等で求められる知識・技術を習得する「生活デザイン」の3つの領域に区分します。これら3つの領域の専門知識を習得するとともに技術を身に付けるため、講義の他に演習や実習科目を配置します。

CP5
実践力及び応用力を伸ばすために「インターンシップ」「卒業演習」「女性と社会」「ボランティア実習」等の科目を配置します。

DP1
文化・社会や自然に関する知識を体系的に理解するとともに、主体的な学びを通して豊かな人間性を培い、良識のある社会人としての教養や態度を身につけている。

DP2
生活に関連する情報、福祉・健康、アパレル・インテリアの領域において専門的知識・実践的スキルを身につけ、実生活に活かし役立てることができる。

DP3
自らの倫理観・職業観を確立し、現代社会の諸問題に対して主体的に考え、行動することができる。

DP4
様々な手法による情報活用能力を身につけ、様々な人々とコミュニケーションをとりながら、自らの意見を適切に表現し、良好な人間関係を発展させることができる。

DP5
多様な立場の人々を理解するとともに協力しあい、地域社会に貢献することができる。